

学校教育目標	心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する。
目指す学校像	子どものやる気を育てる日進北小・授業が楽しい日進北小
重点目標	1 「探究的な学び」および「学びのポイント「じ・し・や・く」」を生かした学習活動の推進 2 全ての子どものWell-Beingを保障する教育支援体制および教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールの成長および発展、深化に向けた理念と方策の共有と行動 4 教師と児童がともに作り上げていく安全・安心な学習環境整備 5 一人ひとりが力を発揮し、「子どものやる気を育てる・授業が楽しい」学校をつくる教職員の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月13日
1	【現状】 ○国語・算数ともに全国や県の水準をやや上回っているが、市の平均値を僅かに下回っている。 【国語】：「言葉」領域の正答率が高い。 【算数】：「図形」領域の正答率が高い。 国語算数ともに、短答式・記述式の問題の正答率がやや高い。 【課題】 ○記述式の問題や、思考力を問う問題での高い正答率は、今後も維持したい。 ○基礎・基本の確実な定着は継続して必要。 ○学力の個人差が大きく、個に応じた支援も充実させていく必要がある。	学ぶ楽しさを実感できるような授業の開発および実践	①「探究的な学び」および「じ・し・や・く」の推進により、個々の児童が自身の学習課題を設定して、意欲的に学習に取り組む態度の育成と習慣化を図る。 ②「探究的な学び」の実践の中で、教員が児童の学びに伴走しながら、児童の課題解決能力を育成する。	①「自分の課題をもって、学習に取り組んだ」と回答する児童の割合が昨年度(90%)以上となったか。「探究的な学び」「じ・し・や・く」について実践したと回答する教員の割合が、昨年度(86%)以上になったか。 ②「児童の学びへの伴走」について、教員の肯定的回答が80%以上か。	①学校評価アンケートにおいて、91.3%の児童が、肯定的な回答をしている。また85.7%の教員が実践していると回答。(実際は全ての学級で実施した。)学校全体に定着してきたと考えている。 ②「じ・し・や・く」および児童の学びへの伴走に関して、94.3%の教員が肯定的にとらえ指導力の向上させた。	A	①児童が率先して課題に取り組み、自分なりの答えを考え出す態度は、高学年を中心に定着してきている。より効果的な「探究的な学び」の実現のため、系統的な指導を継続していく。 ②③教員自身が「児童の学びへの伴走」についての理解を深めていくことで、さらなる指導力の向上を図っていく。	○「児童の学びに伴走する」とは、一人ひとりに寄り添っているということ。実践している姿勢が、とても良い。 ○学習の質が向上していることがうかがえる。 ○ICTの効果的な活用によって、算数の学習に、より工夫の余地があると感じる。 ○歴史のある学校だが、イメージに反してICT活用が進んでいることに驚いている。 ○もう少し保護者に授業を見てもらう機会を増やしてはどうか。
		自己肯定感を支える学力の確実な定着	①ドリル学習や、自主学習の機会を充実させ、個に応じた支援をしながら、基礎・基本の確実な定着を図る。 ②1人1台端末を積極的に活用し、児童の学習への意欲を高めながら、個々の目標をもって学習する習慣をつける。	①全国や市の学習状況調査における国語・算数の結果で、昨年度の自校の結果を上回ったか。 ②「端末を使った学習」について、使った方が意欲をもって学習できた、と回答する児童が80%以上か。	①全国学力・学習状況調査の結果、国語+9pt.(69%→78%)、算数-8pt.(65%→57%)、理科(58%)。3教科とも県や全国とは同水準であった。 ②90.3%の児童が、「ICT機器を活用したほうが、楽しみながら学習できる」と回答している。	A	①「協働的な学習」だけでなく「個別最適な学習」も取り入れながら基礎的な学力の向上にも力を注いでいく。 ②ICT機器をより有効に活用し、個別学習の充実を図っていく。ICTにこだわることなく、判断して使い分ける力を身に付けさせたい。	
2	【現状】 ○「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が、市の平均を下回っている学年がある。(高学年) ○家庭の多様な価値観により、児童へもより細かく個別な対応が必要なケースが増えている。 【課題】 ○不登校や登校しぶり、母子分離不安等の児童への対応を継続して進めていく必要がある。 ○教育相談の希望申込件数が急増しており、十分な対応(相談)ができないケースがある。	教室に入れない児童のための「Sola 一む」の整備・充実	①児童が活用しやすい Sola 一むになるよう継続して整備する。また学習ボランティアの引き続き募集を続け、いつでも活用できる場にする。 ②不登校児童や保護者への周知を徹底。	①年間を通して、利用したい児童がいつでも学習に取り組める場所として整備することができたか。 ②学校だよりや学校ウェブページを活用して、周知をすることができたか。	①Sola 一むに学習ボランティアを計画的に配置することで、有効な活用を図ることができた。 ②昨年度に比べ、今年度は活用機会が増えた。周知が浸透してきたものと考える。	B	①②今後より幅広く有効に活用できる方策を考えるとともに、専門的な対応が必要なケースにも対応できるよう、他校と情報交換するなどして準備していきたい。	○Sola 一むを有効活用できていることが素晴らしい。 ○さらなる活用に向けて関係機関の協力体制が必要と感じている。学校がどうするか、ではなく、市としての方針を出したほうがよい。 ○学生や専門家の派遣等、大学との連携の工夫次第で可能である。
		組織的に迅速かつ丁寧な対応で進める教育相談体制の充実	①必要に応じ部会を招集したりケース会議を実施したりして、担任が一人で抱え込まずに、組織的に対応する。 ②SCやSSWとの連携を積極的に図り、専門的な意見を関係者と共有する。	①学年や学級担任からの要請に応じて、ケース会議等を適切に実施できたか。 ②不登校児童への対応項目で、保護者・職員からの肯定的評価が昨年度(保護者81%、職員94%)以上となったか。	①ケース会議の機会は少なかったが、必要に応じて学級への人員配置や、関係機関への協力要請をして、対応できた。 ②保護者(81%→81%)、職員(94%→100%)の肯定的な回答を得た。	A	①②担任および学年ではどうしようもない、保護者の極めて多様な要望や個別対応が必要なケースが増えている。学校外の関係機関も積極的に活用して対応していきたい。	
3	【現状】 ○学校運営協議会では発足から現在まで充実した熟議を行うことができ、めざす児童像に反映するなど学校運営にも生かすことができている。 ○学校運営協議会への児童の参加も定着してきている。 ○SSNとの連携も有意義に行うことができ、地域の諸団体の協力体制も構築できている。 【課題】 ○家庭や児童の認知度が十分とは言えず、周知に向けた努力は継続して必要である。	地域とともにある学校として連携・協働する事業の策定と行動	①地域の方に授業に参加していただき、地域の方々の思いや努力を児童と共有できるようにする。 ②CS・SSNと連携した催し「防災教室」の継続実施および内容を充実させ、参加人数の増加を図る。	①地域の方に来校いただいたり、訪問したりして、授業に参加する機会を昨年度(3回)以上設定できたか。 ②「防災教室」の内容を参加者体験型中心として充実させ、継続して実施することができたか。	①年間3回(餅つき踊り、お囃子、三貫清水保存)地域の方の授業参加を、指導計画に位置付けて実施した。 ②催しの目的を一新し、子どもの体験活動を中心とした「地域・子どもフェス」を企画、運営した。	A	①地域を知る学習に大変有効であり、今後も指導計画に位置付け、地域団体にも継続してお願いしていく。 ②参加者からは概ね好評をいただき、ねらいは達成できたものと考える。参加者や協力団体を増やしていきたい。	○学校運営協議会の考えが、きちんとSSNのイベントに反映されている。 ○イベント実施後に子どもからのアンケートをとってみたいはどうか。 ○「ストップいじめサミット」を生かして学校での取組がしっかりとして行っていた。 ○児童が運営協議会に参加する取組が大変有意義である。
		コミュニティ・スクールへの児童の参加、地域や保護者への周知	①代表委員会の児童が、学校運営協議会で取組を発表する場を設け、地域の代表者との交流を図る。 ②学校ウェブページや学校だよりを通して、活動を随時周知していく。	①児童が学校運営委員会に参加する場を設け、交流を図ることができたか。 ②学校評価においてコミュニティ・スクールの認知している割合が80%以上となったか。	①代表委員の児童に「ストップいじめサミット」参加報告として参加してもらった。 ②CSの認知度の確認は行えなかったが、家庭や地域からの相談や要望への学校の対応について86%の肯定的回答であった。	A	①児童が地域の願いを聞いたり、児童から要望を発信したりする場を設け、より参画意識をもたせたい。 ②引き続き、CSに関する情報発信の回数を増やし認知度を上げていく。	
4	【現状】 ○開校75年目となり、学校全体として施設の老朽化が目立つ。昨年度、桜の倒木も相次ぎ、早急な対応が必要である。 ○児童が中心となつての安全への取組は実施しているが、依然校内の怪我が多い状況ではある。 【課題】 ○学校単位で修繕できる箇所については引き続き迅速に対応していく。 ○児童中心の安全啓発活動は今後も継続していく。教職員も一体となった活動にしたい。	全ての児童が充実した学習を進めるための安心安全な環境の整備	①施設の異常箇所に関しては、事故を未然に防止するため、発見次第速やかに教育委員会と連携を図る。 ②少なくとも週1回は敷地内の樹木の状態について巡回、点検する。	①正しい優先順位の下に修繕を進めたり、大規模修繕について委員会に依頼したりすることができたか。 ②週1回以上敷地内を巡回し、古木を含めて危険箇所の有無を確認できたか。	①残念ながらプール施設の故障が相次ぎ、指導を中止せざるを得ない状況になった。事故は未然に防げたが、来年度に向けての修繕は進んでいない状況である。 ②点検は確実に実施し適切に対応できた。	B	①市教委の担当課への報告や要請を続け、早期修繕(または水泳指導の外部委託)を実現していきたい。 ②校内巡視は形骸化しないよう、複数人で分担するなどして行っていく。	○老朽化や修繕が進まない問題は、学校の責任ではない。市全体の問題として、行政がしっかりと取り組んでほしいと思う。 ○学校は事故を起こさないように良くやっていると感じる。 ○新しい学校だけでなく、今ある学校にも目を向けて、子どもたちにより良い環境を整備してほしい。
		教師と児童がともに取り組む安全教育の推進	①児童の安全委員会や保健委員会の取組について、全校に周知させることで共有し、事故や怪我の防止に努める。 ②teams等を活用し、児童の事故や怪我の状況について、職員間で情報共有し、安全指導に生かせるようにする。	①児童「安全委員会」と「保健委員会」で、学校安全に対する取組を企画し、全校に周知できたか。 ②「学校施設の安全管理」に関する項目で、保護者からの肯定的評価が95%以上となったか。	①「安全朝食」を新設し、児童の委員会を中心に、全校児童に安全な生活を啓発することができた。 ②施設、設備への安全配慮について、88%の保護者から肯定的な回答を得た。プール中止やエアコン不調の影響と考えられる。	B	①今後も、児童主体の安全啓発活動を継続し、安心安全な環境を児童とともに作っていきたい。 ②学校ができる修繕は迅速に対応していくが、それ以外は市教委の担当課への要請を根気強く続けていく。	
5	【現状】 ○ICTを活用した授業は、大半の学級で実施し、児童のスキルも向上してきている。 ○キャリア段階関係なく、教職員同士の協力体制はしっかりとできている。 【課題】 ○今後も、経験の浅い教職員を支えながら、ベテラン層や中堅層の教職員が活躍する組織運営を推進していく。	教職員個々の授業力向上および学校全体の指導力向上を図る研修の推進	①授業をもっている全ての教員が、少なくとも年間1回以上授業を公開し、互いに見合ったり話し合ったりしながら授業力を向上させる。 ②学校ウェブページで取組を周知する。	①全ての教員が「探究的な学び」の公開を年間1回以上実践できたか。 ②「探究的な学びの実践」に関する項目で保護者からの肯定的回答が昨年度(81%)以上となったか。	①授業参観や校内研修において、すべての教員が年2回以上の授業公開を行った。 ②保護者から「探究的な学び」に対して82%の肯定的な回答を得た。	A	①教員同士で互いの授業を見合いながら指導力を高め続ける組織づくりを続けていく。 ②学校だより等を活用して、「探究的な学び」への理解度を高めていく。	○教職員の時間を生み出す工夫がなされていて、よい。 ○引き続き、先生方の負担が増えることのないよう注意してほしいと思う。 ○「探究的な学び」の理解が完全ではない面があるので、今後も研究を続けて、子どもたちにとってよりよい学びになるようにして行っていく。
		心身ともに健康で、自身の力を発揮できる教職員の健康管理	①業務改善に関して職員研修を実施し、教職員の時間外在校時間を削減する。 ②ワークライフバランスデーを月1回以上設定し、確実に実施することで、職員の健康増進を図る。	①時間外勤務削減への意識をもって業務を遂行する職員が昨年度(81%)以上だったか。 ②教職員全体の業務満足度が、昨年度(68%)以上となったか。	①教員自身が時間外勤務時間を削減できたという回答は80%であった。 ②やりがいをもって仕事ができたと回答した教員は全体の94%、満足度の平均は72%と、昨年度より向上した。	A	①時間を意識して業務を遂行する習慣は、今後もなくならないように、声掛けなどで働きかけていく。 ②満足度とともに、教員同士が支え合える組織づくりに注力していく。	